

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- 理事会報告・委員会報告・お知らせ……………1
- 2004年洋書輸入統計〔後編〕……………2
- 出版文化史逍遙(95) 洋書の歴史雑記帳〔L〕 ……5

理事会報告

日時：平成17年3月28日（月）

1. 委員会報告

(1) 総務委員会

- ・【総会】選挙管理委員名簿と総会次第（案）が報告され了承された。
- ・【来期予算策定】2回目のドラフト案を討議。3月の決算をふまえ4月の理事会で最終案として討議する。
- ・【会計監査】4月中旬に行う。その際関口総務委員長も立ち会う。→業務監査も行った方が良いとの意見が出された。

(2) 広報委員会

- ・【次回セミナー】4月20日頃を予定。

(3) ダイレクトリー・HP委員会

- ・【ダイレクトリー（冊子体）】広告は順調に集まっている。理事各社も協力を御願したい。（私案だが）冊子体の発行は隔年にしたらどうか。
- ・【委員会全般】次回「若手の会」に出席しホームページに関する意見を聞きたい。また委員会でも若手を活用したい。→HP上の会員名簿に取扱分野、業種、業態のインデックス（和・英）が必要との意見

が出された。

(4) 文化厚生委員会

- ・【同好会】つり同好会の参加社数が少ないので再考したいが、結論はまだ出ていない。

(5) 事業委員会

- ・今年のTIBFの説明会が4月21日に行われる。

2. その他

- ・【若手の会】（賀川理事）2回目を4月11日に行う。前回での意見からロゴとWebの活用を中心にまとめ、理事会に報告する。
- ・【退会の承認】カンダブックトレーディング(株)と(有)インターナレッジ・ブックスから出されていた退会届けを承認した。→いきなり退会ではなく、休会という制度も必要ではないかという意見が出された。

3. 事務局

- ・Web上での常設バーゲンコーナーを考えている。事業委員会、HP委員会と詰めていく。→「若手の会」でも検討する。外雑のBack Numberも載せたらとの意見が出された。

委員会報告 <文化厚生委員会>

第110回 72会ゴルフコンペ

2005年3月26日（土）天候 晴れ

会場：狭山ゴルフクラブ 参加者：20名

〔成績表〕

	グロス	ハンデ	ネット
優勝 西山幸児（西山洋書）	85	12.0	73.0
2位 齋藤純生（日本文献出版）	93	18.0	75.0
3位 平野耕望（日本出版貿易）	98	22.8	75.2
4位 藤巻文二郎（日本出版貿易）	105	28.8	76.2
5位 小林謙作（医学書院）	91	14.4	76.6
ドラコン 斎田利幸 金原 優	西山幸児×2		
ニアピン 豊泉 弘 和田 茂	藤巻文二郎×2		
バスグロ 西山幸児（西山洋書）	85		

告 知

2005年度定時総会を以下のとおり開催しますのでご出席を要請します。

記

日時：2005年5月27日（金）16：00～17：15

会場：プレスクラブ

※総会終了後懇親会を催しますので、併せてご出席ください。

〔理事会〕

2004年(平成16年)1月～12月の洋書輸入統計(後編)

荒 木 亮 一

マイクロフィルム」と「CD-ROM」の輸入統計を考えるまえに、昨年1年の会報を読み直してみた。10月号P.1に掲載されている記事「フランクフルト・ブックフェア2004所感」；《ブックフェア事務局発表では“出展社数、入場者数いずれもほぼ前年並”であったが、あちこちでビジネス客の減少傾向が見えた》とのことで、出版社、入場者の流れが底辺で変化したことに疑う余地はない。同時に開催されたSTM会議についての報告においても、《“ほぼ終日”Open Access”がテーマ”となった》ということで、この《テーマが出版業界や学術研究市場に与え得る潜在的なインパクトの大きさ》に対しての危惧がその文字から感じ取れた。4.と5.で検討する2項目もこれらの影響をうけていることは間違いない。因に、30年以上前に、当時アメリカで最大であった某出版社が将来への構想としてもっていた“On Demand”出版が正にその“Sprout”であった。今や“IT”の進歩により当時のアイデアが完成した形で実現へ向っている。書籍の役割が重要であることに変わりはなくとも、「情報」については改革の時代である。

4. マイクロフィルムの輸入通関統計

表4 最近9年間のマイクロフィルム輸入通関額の推移(単位 百万円)

品名	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	前年比	1996:2004
マイクロフィルム	551	528	421	431	443	413	357	239	66.95%	38.93%

<考察>

文献や図面などを5分の1から40分の1に縮写したマイクロフィルム(露光し、かつ、現像したものに限る)は1988年に独立した項目として取り扱われるようになって以来、有効に整理且つ活用出来る様々な資料の新しい形態として1990年(¥780百万)～1991年(¥767百万)に急増したが、その後徐々に減少の一途を辿り2004年はピーク時の約3分の1の輸入額に留まっている。当然のことながら、IT革命の進歩と反比例した推移である。2004年の輸入先は6カ国のみであった。国別の実績は次のとおりである。米国が1位で¥202百万、構成比84.6%、(前年の構成比81.3%)、2位フランスで¥13百万、構成比5.6%(同上2.2%)、

3位英国で¥12百万、構成比4.8%(同上5.4%)、4位オランダで¥6百万、構成比2.6%(同上4.3%)、5位中華人民共和国(中国)で¥3百万、構成比1.3%(同上0.3%)、6位ドイツで¥3百万、構成比1.1%(同上6.2%)、と変化している。因に、2001年は9カ国でタイ、シンガポール、ベルギー、2003年は8カ国で大韓民国(韓国)とベルギーからも若干の輸入があったが、輸入先は平均して7、8カ国である。

5. “CD-ROM”の輸入通関統計

表5 最近9年間のCD-ROM輸入通関額の推移(単位 百万円)

品名	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	前年比	96:04
CD-ROM (1)	31,700	27,565	38,283	47,584	53,252	44,424	39,231	37,078	95%	182%
CD-ROM (2)	～	～	5,552	9,948	13,078	16,073	17,836	23,263	130%	～
計	31,700	27,565	43,835	57,532	66,330	60,497	57,067	60,341	106%	296%

<考察>

興味深いことは、輸入額がピークであった2001年のCD-ROM (1) と (2) をみると8対2であったのに対し、2003年は約7対3、2004年は約6対4と(2)の比率が高くなって来た。後者が上昇した背景には台湾、香港、韓国からの輸入が大きく伸びたことがあり、輸入額による順位は、米国、シンガポール、台湾、アイルランド、香港、韓国、ドイツと1位から7位を占めている。また、各国別に(1)と(2)の比率をみると、1位の米国は(82%：18%)、2位シンガポールは(62%：32%)、3位台湾で(8%：92%)、4位アイルランドが(99.5%：0.5%)、5位香港(7%：93%)、6位韓国(13%：87%)、7位ドイツ(71%：29%)である。因に、欧米からは(1)が多く、シンガポールを除くアジア圏からは(2)が中心になっている。この項目は実行関税率表が「レーザー読み出しシステム用のディスク」を(1)「音声及び画像以外の記録の再生用のもの(For reproducing phenomena, other than sound or image)」、(2)「その他のもの」と、(3)「音声のみの再生用のもの」と区分けしているので(1)類および(2)類を洋書関連の物品としてまとめた。

6. その他の国からの輸入通関統計

表6 国別輸入通関額による順位表(単位 百万円)

国名	2004年1～12月の輸入額			2003年実績 書籍+雑誌	2004年 前年比	2003年 総合順位	2004年 総合順位
	書籍	新聞・雑誌	合計				
主要10ヶ国の合計	34,819	14,003	48,822	54,363	90%	(1～10)	(1～10) (表3-a参照)
タイ	457	31	488	631	77%	10	11
ブラジル	142	280	422	415	102%	12	12
台湾	252	11	263	358	73%	13	13
スペイン	233	5	238	229	104%	16	14
スイス	137	88	225	341	66%	14	15
マレーシア	215	0	215	137	157%	17	16
アイルランド	209	0	209	250	84%	15	17
スウェーデン	135	1	136	54	252%	22	18
ベルギー	107	14	121	52	233%	24	19
カナダ	71	14	85	55	155%	21	20
オーストラリア	7	75	82	73	112%	18	21
オーストラリア	62	19	81	52	156%	25	22
デンマーク	48	8	56	68	82%	20	23
インド	35	4	39	34	115%	26	24
ロシア	33	2	35	54	65%	23	25
ポーランド	20	3	23	9	256%	29	26
ニューカレドニア	16	0	16	7	229%	31	27
アラブ	12	1	13	8	163%	30	28
インドネシア	12	0	12	70	17%	19	29
イスラエル	6	2	8	14	57%	28	30
小計(1)	2,209	558	2,767	2,911	95%	～	～
その他の国々	58	14	72	67	107%	～	～
小計(2)	2,267	572	2,839	2,978	95%	～	～
合計	37,086	14,575	51,661	57,341	90%	～	～

注：ニューカレドニアからの輸入倍増、27位になった

<考察>

主要10カ国の合計輸入額は構成比が95%。11位のタイの構成比は0.9%で、11位以下30位までの合計額の構成比は5.4%であることからみても原産地はトップ10に集中していることが分かるが、その20カ国の中にも健闘している国々があるので目を通してみたい。まず、イタリアが再び10位に浮上し、タイが書籍、雑誌ともに減って11位に落下した。金額的にも構成比も小さいが、マレーシア、スウェーデン、ベルギーからの増加が顕著な年であった。その他にもカナダ、オーストラリア、インド、ポーランド、アラブが伸びて順位を上げた。オーストラリアは増加したが、カナダ、ベルギーの伸びが大きく順位を下げた。ニューカレドニアが順位で31位から27位に浮上、その発展に興味をそそられる。ニューカレドニア(New Caledonia)については昨年も取り上げたが、南西太平洋、オーストラリア北東方にある火山島群でフランス領。メラネシア人・フランス人が住みニッケル・クロム・コバルトを産出。

7. 洋書関連品目輸入額統計

表7 洋書関連品目輸入額統計(内訳)表(単位 百万円)

品目		2003 輸入額	2004 輸入額	前年比	1994 輸入額	10年間の 成長度
幼児用の絵本及び習画本		3,401	3,756	110%	2,163	174%
楽譜		756	693	92%	693	100%
地図・ 海図 など	地球儀・天体儀	320	435	136%	162	269%
	製本したもの	53	69	130%	82	84%
	その他のもの	446	424	95%	422	100%
	小計	819	928	113%	666	139%
葉書、印刷したカードなど		1,199	1,468	122%	1,319	111%
カレンダー	紙製又は板紙製	2,069	2,479	120%	1,628	152%
	その他のもの	142	173	122%	116	149%
	小計	2,211	2,652	120%	1,744	152%
その他の 印刷物	広告・商業用カタログなど	6,631	6,716	101%	4,945	136%
	写真	998	2,411	242%	798	302%
	絵画・デザインなど	2,381	1,898	80%	5,466	35%
	その他のもの	18,516	17,644	95%	25,739	69%
	小計	28,526	28,669	101%	36,948	78%
郵便切手・収入印紙など		272	5,324	1,957%	—	—
デカルコマニア		910	812	89%	—	—
設計図		113	136	120%	—	—
合計		38,207	44,438	116%	43,533	88%

<考察>

2003年に引き続き全体的に増加傾向にある。円高を考慮すると20%強の伸びであると考えられるのでかなりの増加であり、重複して記載した幼児用絵本、楽譜、地図などを差し引いても「書籍+雑誌」の合計額の約76%に匹敵する。「書籍のみ」の額よりも多い105%である。注目に値する項目は「郵便切手・収入印紙など」が第一で、2003年に急落した前年比52%を跳ね返して2004年はその約20倍である。特に輸入量が多かったのは英国(¥2,698百万、構成比51%)とフランス(¥2,081百万、39%)で次点が米国(¥215百万、4%)。過去5年間の記録では、輸入額が(¥200～¥500百万)の範囲内を行き来していたので、含まれる物品の中で特に増加したものがあるであろう。この項目に含まれるものは「郵便切手、収入印紙その他これらに類する物品(発行国[額面で流通する国を含む。]で通用するもので使用してないものに限る。)、これらを紙に印刷した物品、紙幣、銀行券及び小切手帳並びに株券、債券その他これらに類する有価証券」である。次に、地球儀、地図なども順調に推移している。ここ数年来、日に日に移り変わる世界情勢、ますます狭まり行く地球の中で「何処で」、「何が」を見極める必要を感じることが多くなった現代社会を反映しているのであろう。

8. 参考資料（輸出通関統計）～I

表8 2004年1～12月輸出通関統計表(単位 百万円)

品 目		03/1～12月 輸出額	04/1～12月 輸出額	前年比	2004 構成比
書籍 及び それに 類する もの	単一シートのもの	624	530	85%	3%
	辞典及び事典	73	69	95%	0%
	その他のもの	12,069	10,670	88%	67%
	幼児用絵本	33	61	185%	0%
	小 計 (1)	12,799	11,330	89%	71%
	楽譜	135	144	107%	1%
新聞・雑誌 その他	地図・海図	55	58	105%	0%
	小 計 (2)	190	202	106%	1%
	週に1回以上発行するもの	93	14	15%	0%
	その他の定期刊行物	4,190	4,478	107%	28%
小 計 (3)		4,283	4,492	105%	28%
合計 (1)+(3)		17,082	15,822	93%	99%
合計 (1)+(2)+(3)		17,272	16,024	93%	100%

9. 参考資料（輸出通関統計）～II

表9 10年間の輸出通関額対照表(単位 百万円)

暦年	書籍・辞書・絵本			雑誌・新聞			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
1995	18,111	88%	100	4,872	97%	100	22,983	90%	100
1996	18,742	103%	103	4,742	97%	97	23,484	102%	102
1997	17,606	94%	97	4,818	102%	99	22,424	95%	98
1998	17,314	98%	96	4,511	94%	93	21,825	97%	95
1999	15,280	88%	84	4,528	100%	93	19,808	91%	86
2000	14,378	94%	79	4,404	97%	90	18,782	95%	82
2001	13,848	96%	76	4,302	98%	88	18,150	97%	79
2002	13,449	97%	74	4,311	100%	88	17,760	98%	77
2003	12,799	95%	71	4,283	99%	88	17,082	96%	74
2004	11,330	89%	63	4,492	105%	92	15,822	93%	69

10. 輸入と輸出の比率対照表

表10 比率でみた輸入額・輸出額の歴史(書籍類+雑誌類のみ)

分類	1974	1984	1994	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
輸入	76%	49%	61%	71%	71%	72%	73%	76%	76%	77%	77%
輸出	24%	51%	39%	29%	29%	28%	27%	24%	24%	23%	23%

コメント：

過去10年間にみる“出版物全体の輸出”は減少傾向であり、指数が示すように書籍類は約3分の1になり、新聞・雑誌も7%減となった。前年比は表が示すとおりだが、2004年の円／米ドルの平均相場をベースにすると書籍類輸出額の前年比は（－）5%、新聞・雑誌は（＋）12%、合計で（－）0.9%と本レポート年はまづまづのレベルであった。

11. 為替相場の動向と輸入額への影響度推定

表11 為替相場の動向と輸入額への影響

通貨	2001年の 年間平均 為替相場	2002年の 年間平均 為替相場	2003年の 年間平均 為替相場	2003年の 年間平均 為替相場	前年比 [(+)は円高 (-)は円安]	決済通貨の 推定使用率 (%)	2002年度の 推定影響度 (vs. 2003)
US\$	¥121.54	¥125.34	¥115.99	¥108.67	6.31%	71%	-6.74%
Stg.£	¥175.09	¥187.99	¥189.41	¥199.16	-5.15%	2%	4.90%
EURO	¥108.81	¥118.14	¥131.02	¥134.98	-3.02%	1%	2.93%
CAN\$	¥78.50	¥79.80	¥82.88	¥83.56	-0.82%	1%	.81%
S.Fr.	¥72.07	¥80.54	¥86.21	¥87.48	-1.47%	1%	1.45%
Others	～	～	～	～	0.00%	1%	0.00%
Jpn.¥	～	～	～	～	0.00%	23%	0.00%
加重平均	¥111.20	¥118.36	¥121.10	¥122.77	-1.38%	100%	-4.63%

コメント：

円／USドルの相場は2002年第1四半期（1～3月）が¥130台、第2四半期に入ると¥130から¥120台前半にまで上昇して年末までつづいた。2003年には徐々に円が強含み年末には¥107台にまで進んだ。更に円の強含みがつづき2004年末には¥103台で終わった。決済使用率が高い“USドル”の変動は輸入される時期によって、書籍その他の商品の定価に影響が大きいので注意を要する。日本経済の行方、米国の双子赤字や利上げベースなどなど、予断を許さない状況であり、まだ暫くはUSドルの強含みが予想されている。「推定影響度」は、輸入額の前年比にみる「マイナス」が、「為替の変動なかりせば」を想定、輸入額、決済通貨使用率、為替相場前年比をベースにして算出した（±成長率）、即ち、マーケット変動の推定値である。注：これらの推定値は、みずほ銀行から提供していただいた2004年の「公示相場全通貨中値月中平均」の一覧表をベースに試算したものである。ここに、ご協力に対し深く感謝申し上げる。

12. 輸入と輸出の比率対照表

表12 輸入額と為替変動率をベースに推定した成長率(最近10年の前年比)

年	区分	書籍・雑誌輸入額の 前年比	主要通貨の為替相場加重 加重平均値前年比	円高／円安調整後の 推定成長率
1995		105.0%	3.4%	8.4%
1996		117.4%	-14.1%	3.3%
1997		109.0%	-8.0%	1.0%
1998		101.0%	-6.1%	-5.1%
1999		90.6%	14.0%	5.5%
2000		101.1%	13.5%	14.6%
2001		117.4%	-9.4%	7.9%
2002		97.9%	-6.4%	2.6%
2003		100.4%	-2.3%	-5.5%
2004		90.1%	-1.4%	-4.6%

コメント：

「10年間の推移を示した。但し、「推定成長率」の2002年以降は、（表11）にある使用率の高い主要5通貨、および「財務省の貿易データ（2000年）」をベースに試算した。（おわり）

洋書の歴史雑記帳 [L] ドイツ学術受容の歴史 (13)

鈴木 陽二

◆シーボルトの来日 (3) 門弟のドイツ学術摂取 (1)

シーボルトはオランダ商館付医師としての役割だけではなく、日本に関する万有的調査を命じられていたことは前に述べた。この面での彼の活動は目覚しく徹底したもので、川原慶賀などの絵師による日本の風俗、動植物、諸事物の描写や記録、それらの収集、日本の地図や書物類の取得など、驚くほど多彩なものだった。しかし、その中には機密に属するものや将軍の下賜品など、譲渡や私的収集が絶対に許されない禁制品が多数含まれていた。シーボルトは1828 (文政11年) に約5年に及ぶ日本での任期を終えて帰国することになった。それまで膨大な収集品は逐次船で送り出していたが、彼が船出する直前に最後に船積みした船が台風に遭って港に引き返し、積荷の検閲で図らずも禁制品の持ち出しが発覚した。このいわゆるシーボルト事件では、彼自身厳しい尋問を受けることになったばかりではなく、多くの蘭学者や幕府役人が連座して処罰を受け、その数は50名にも上ったという。結局シーボルトは国禁(来日禁止)の処分を受けて追放された。そういう彼の日本における動き、処遇の問題はさて置いて、ここでは彼の門人たちによるドイツ学術摂取の様子を簡単に見ることにしたい。シーボルトに教を受けた蘭学者のほとんどが幕末における日本の蘭学・西洋医学・近代科学の発展を担ったのであり、彼らによって著された著作は膨大なものだった。その中からドイツ書の翻訳 (オランダ語訳からの重訳) についてざっとたどってみることにしたい。

羽州鶴岡で1787 (天明7年) に生まれた小関三英はシーボルトに師事し、幕末の優れた蘭学者として名を馳せた。1834 (天保5年) には幕府天文台の訳員にもなったが、「蜜社の獄」のあおりを受けて自殺した。彼は多くの著作・訳書を残したが、ドイツ医学ではコンスブルッフ (Georg W.C. Consbruch) が1802年に著した内科書を訳した『泰西内科集成』(文政7年～天保6年) は写本で流布した。これはシーボルトに勧められて訳したものだという。この本は定本だったらしく、高良斎(下記)、青地林宗、箕作阮甫、高野長英など、何人もの蘭学者によって翻訳されている。

徳島出身の高良斎はシーボルトの高弟で信頼厚く、シーボルトが離日する際に特に妻お滝と娘イネの世話

を託し、内科・外科の診療器具を贈っている。彼自身もコンスブルッフの内科書を翻訳しているが、大阪で眼科を開業し、わが国で遅れていた眼科学の大家として蘭方医の重鎮となり、代表作『耳眼詳説』を著した。

伊東玄朴は佐賀に生まれ、長崎で通詞からオランダ語を学んだが、やがてシーボルトの鳴滝塾に入門した。師の江戸参府に随行して江戸に上り、そのまま江戸に止まって蘭学塾「象先堂」を開いた。塾は診療所・調薬所・医学蘭学門弟寄宿室などで成り立ち高額の入塾料を徴収したが400人ほどの門弟が集まり繁盛したという。後、鍋島侯のお側医師となり、次いで安政5年には將軍家定重病の折には蘭方医として初めて奥医師となって最高位法印に叙せられた。同年、お玉ヶ池種痘所の開設に中心的役割を果たしたが、これは東大医学部の前身西洋医学所に発展する。訳業では1835～1858 (天保6年～安政5年) にオーストリアのプラーク大学教授ビショップの著作を訳して『医療正始』(全8編24冊) を著している。しかし本書の著者名は伊東玄朴になってはいるが、実際には箕作阮甫が二十数年かけて訳したものだという。

兄玉順蔵は備前藩の医家の家に生まれ、長ずるに及んで脱藩して長崎に遊学しシーボルトの門をたたいた。後年帰藩を許されて備前で開業したが、かたわら多くの蘭書を翻訳した。ドイツ書ではコンラーディの内科書を訳して『公氏医家玉海』2巻 (万延元年) を刊行した。コンラーディ (Johan W.H. Conradi) はハイデルベルク、ボン、ベルリン、ゲッチンゲン大学教授を歴任した当代一級の医学者で多くの著作を執筆したが、江戸時代日本でも多数翻訳された。

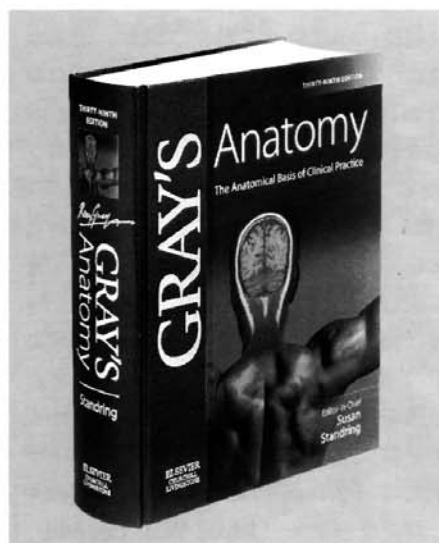
湊長安は1786 (天明6年) に現在の石巻市に生まれ、江戸に出て蘭方を吉田長淑に、蘭学を大槻玄沢に学んだ。1823 (文政6年) にシーボルトの門弟となり2年ほどして江戸に帰り開業したが、シーボルト直伝の内科医として名声を得た。『至母爾篤筆授略説』『失以勃見杜驗方録』『悉乙勃爾咄』などシーボルトが教授した医術を著書にし写本で流布したが、この本によってシーボルトが伝えた医学の内容がつとに判明することになったという。〔参照文献：板沢武雄『シーボルト』／鈴木重貞『ドイツ語の伝来』〕

(元丸善・本の図書館長)

グレイ 臨床人体解剖学 第39版

Gray's Anatomy The Anatomic Basis of Clinical Practice

Edited by:
Susan Standring, et al.



◆ 1627 pp.
2260 (incl color 700) figs.
39th ed. 2005
¥23,384 (税込)

◆10年振りの改版となる古典的マクロ解剖学書の名著の第39版。人体解剖学の全てを網羅した比類なき究極の解剖学レファレンス。今回の新版は、従来とは全く異なり、レイアウト・デザインの一新、頁の整理・縮小によるアクセスの向上、綿密な編集、読み易さの向上、重複箇所の削除、豊富な電顕を含む最新モダリティ画像の利用、神経解剖学の全面改訂、図版の標準化などによる大幅な改版となっている。また、初めて系統部位別に構成され、臨床医をチームとした編集陣により、実際に医学（外科/放射線科）や歯学、物理療法など、様々な関連医療分野の診療に従事する人々のニーズにも最大限、適合するよう編集されている。

◆Contents:

- Section 1: Introduction and Systemic Overview
- Section 2: Neuroanatomy
- Section 3: Head and Neck
- Section 4: Back
- Section 5: Pectoral Girdle and Upper Limb
- Section 6: Thorax
- Section 7: Abdomen and Pelvis
- Section 8: Pelvic Girdle and Lower Limb

Churchill Livingstone, Edinburgh
日本総代理店 医学書院



IGAKU-SHOIN

〒113-8719 東京都文京区本郷 3-24-17 ☎(03)3817-5680 FAX (03)3815-7805
E-mail fd@igaku-shoin.co.jp http://www.igaku-shoin.co.jp

□版元価格。為替相場の変動により円価格を変更することもありますので、予めご了承ください。

日本洋書協会会報 vol.39 No.4(通算455号) 発行日2005年4月25日 編集者 正田 実

発行所 日本洋書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-17-3 TEL 03-3264-8791 FAX 03-3264-8790
URL: http://www.jaip.gr.jp E-mail: jaip@poppy.ocn.ne.jp